

令和5年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	基礎学力の充実に向けたバランスのとれた教育課程を編成するとともに多様な生徒の進路希望に対応する質の高い学習指導に取り組み、生徒一人ひとりの学習機会の拡大を促進する。	①「主体的・対話的で深い学び」を実現し、生徒自身が成果を実感できる授業を研究する。 ②すべての生徒の学習を保障し、ICTを活用した主体的に学ぶ力を育成するための指導方法の工夫・改善を図る。	①単元の「指導と評価」の計画を立てる際に、生徒が身に付けるべき力をどう指導し、どのタイミングで評価するかを具体化するとともに、生徒がICTを活用し、「主体的・対話的で深い学び」を実現できる指導方法を研究する。 ②特別募集生徒を含めたすべての生徒に対してわかりやすい、達成感のある授業を行う。	①「指導と評価」の計画の中で、生徒が身に付ける学力の3要素の具体的な方策を示すとともに、生徒がICTを活用した主体的・対話的で深い学びを重点に置いた授業の研究を進めることができたか。 ②生徒による授業評価の「できたようになつたと実感する」の観点で85%以上の肯定的な回答が得られたか。
2	生徒指導・支援	①自転車乗車マナーの向上を積極的に進め、交通安全に対する取組を組織的に推進する。 ②生徒の自主的・主体的な活動を支援し、豊かな人間性や社会性を培う活動内容の充実に図る。	①自転車の事故防止とマナー向上の指導を行う。 ②生徒会活動を支援し、生徒が自主的・自発的に諸活動へ参加できるように取り組む。	①地域や外部機関と連携を図り、年間を通じて交通安全指導を実施し、交通安全に対する意識を向上させる。 ②生徒会、委員会及びボランティア活動を活性化するとともに、Twitterなどのソーシャルメディアなどを活用し、部活動や生徒会本部の活動を発信し、更なる活動の充実に図る。	①意識向上により事故件数を減らすことができたか。また、近隣住民からの苦情数が減少したか。 ②生徒会、委員会、ボランティア活動へ生徒の自主的・自発的な参加を促すことができたか。また、Twitterなどのソーシャルメディアを活用することで中学生や地域住民が本校の生徒会活動に興味関心を持つことができたか。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
3	進路指導・支援	社会的・職業的に自立できる力の醸成を図り、生徒一人ひとりが主体的に進路を考える姿勢を育むキャリア教育の充実を推進する。	①進路実現に向けたキャリア教育実践プログラムを充実させる。 ②特別募集生徒の進路決定に向け、教科「職業」や面談の内容の充実を図る。	①キャリア教育に関する取組を精査するとともに、外部機関との連携に向けた計画を立て、実践する。 ②ソーシャルスキルトレーニングや面談を通じて、進路に向けた意識を高める。	①目標や計画を可視化し、生徒一人ひとりが意識を持って取り組む支援ができたか。 ②生徒一人ひとりが、自分の特性を理解し、進路に対する意識を持つことができたか。
4	地域等との協働	P T Aとの連携、地域、企業の教育力の活用などにより学校理解の促進を図るとともに、地域に開かれた地域とともにある安全・安心な学校づくりを進める。	積極的に地域の人材を活用し、教育活動の充実を図り、地域に本校教育活動の理解を図る。	①生徒会、P T A、自治会等が連携し地域の行事へ協力し、地域の要望を踏まえた地域貢献デーを実施する。 ②HPの更新に加え、Twitterを新設し、積極的に情報を発信し、本校についての理解を図る。	①地域の力を活用し、連携事業を実施できたか。また、地域のニーズを踏まえた地域貢献デーを実施できたか。 ②校内の各グループ等のHP担当を中心に、本校の情報を発信を積極的に行うことができたか。
5	学校管理 学校運営	①生徒の防災意識を高め、安全対策を一層強化するとともに、地域と連携した災害時の体制整備を研究する。 ②教員のワークライフバランスを推進するために、教員の働き方改革を推進する。また教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む組織の育成を図る。	①生徒及び職員が参加するDIG研修や防災訓練を実施するとともに、災害時に学校としてどのような貢献ができるかを模索する。 ②持続可能な学校運営と教育の質を高めるために、教員のワーク・ライフ・バランスの実現を目指す。	①生徒・職員の安全を確保しながらの地域貢献について、具体的な要望を、学校運営協議会等を活用し調査する。 ②期間を区切り年次休暇の取得状況を確認し、職員に対して計画的な取得を促すとともに、教員の長時間勤務の改善に取り組む。	①DIG研修、防災訓練を、より実践的に実施できたか。また、災害時の地域貢献について、具体的な活動を明らかにできたか。 ②年次休暇を15日以上取得(時間単位を含む)できたか。また、1月あたりの時間外在校等時間が80時間を超える職員数を0にできたか。